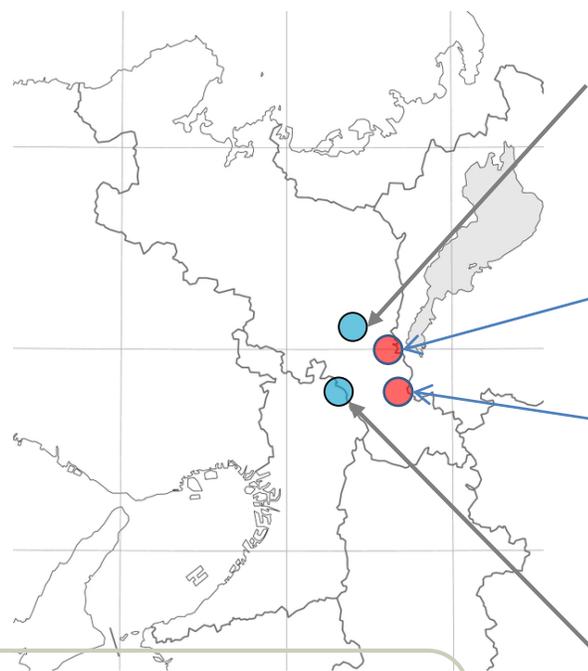


KOUFUKU（工・福）連携の創造

～ロボット×福祉による新たな就労～

南山城学園の概要



京都市中心部
(こども) 保育園、小規模保育園

京都市醍醐
(障害) 入所、通所、相談

城陽市・宇治市
(障害・高齢) 入所、通所、相談
(障害) グループホーム

大阪府島本町
(障害) 通所、相談
(こども) 小規模保育園、認定こども園

合計	40事業拠点
総事業費	45億円
職員数	723名

パラダイムシフト

難易度が高く発展性の高い事業への挑戦

農業

作業・連携の難易度が低い

軽作業

下請け作業等の需要が高い

先端技術

知識・技術の難易度が高い

障害者就労として難易度が低いが発展性は低い

障害者就労として難易度が高いが発展性も高い

新しい連携の発想

最先端工業と福祉の連携（KOUFUKU連携）

Technology(工業) ✕ Safety(安全基準) ✕ Welfare(社会福祉)

Chemical reaction(化学反応)

産

川崎重工業



学

龍谷大学



福

南山城学園



事業内容

人協働型ロボット「duAro」を導入した工業と福祉の連携

工業

機械技術の提供

福祉

利用者様の作業支援

大学

市場調査・安全基準の設定



生産ラインを構成する
共生型ロボット「duAro」

KOUFUKU連携の意義

- 公共を支えるソリューションに携わることで地域社会に貢献
 - ▶ 川の水位計・見守りセンサー（独居高齢者・子ども）
- 障害者 = 単純作業・低賃金という概念を打ち壊す
 - ▶ 付加価値の高い商品の生産

KOUFUKU連携の目標

- 就労継続支援B型の工賃向上

- ▶ 安い工賃で働いている
就労環境の改善を目指す

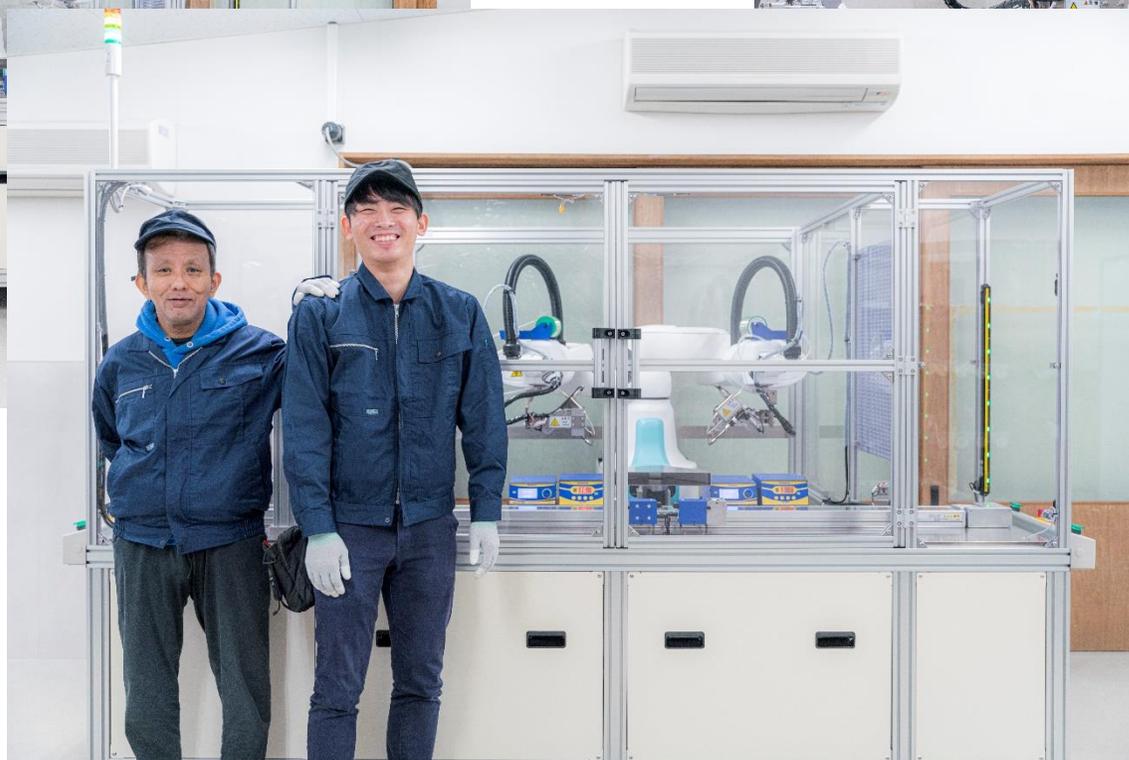
令和3年度
全国B型平均工賃
月額16,507円

令和3年度
魁B型平均工賃
月額21,601円

- 多様な人の「生きがい・やりがい」を創出

- ▶ 社会に役立つ仕事・かけがえのない仕事を担う

作業の様子



作業の様子



KOUFUKU連携による事例

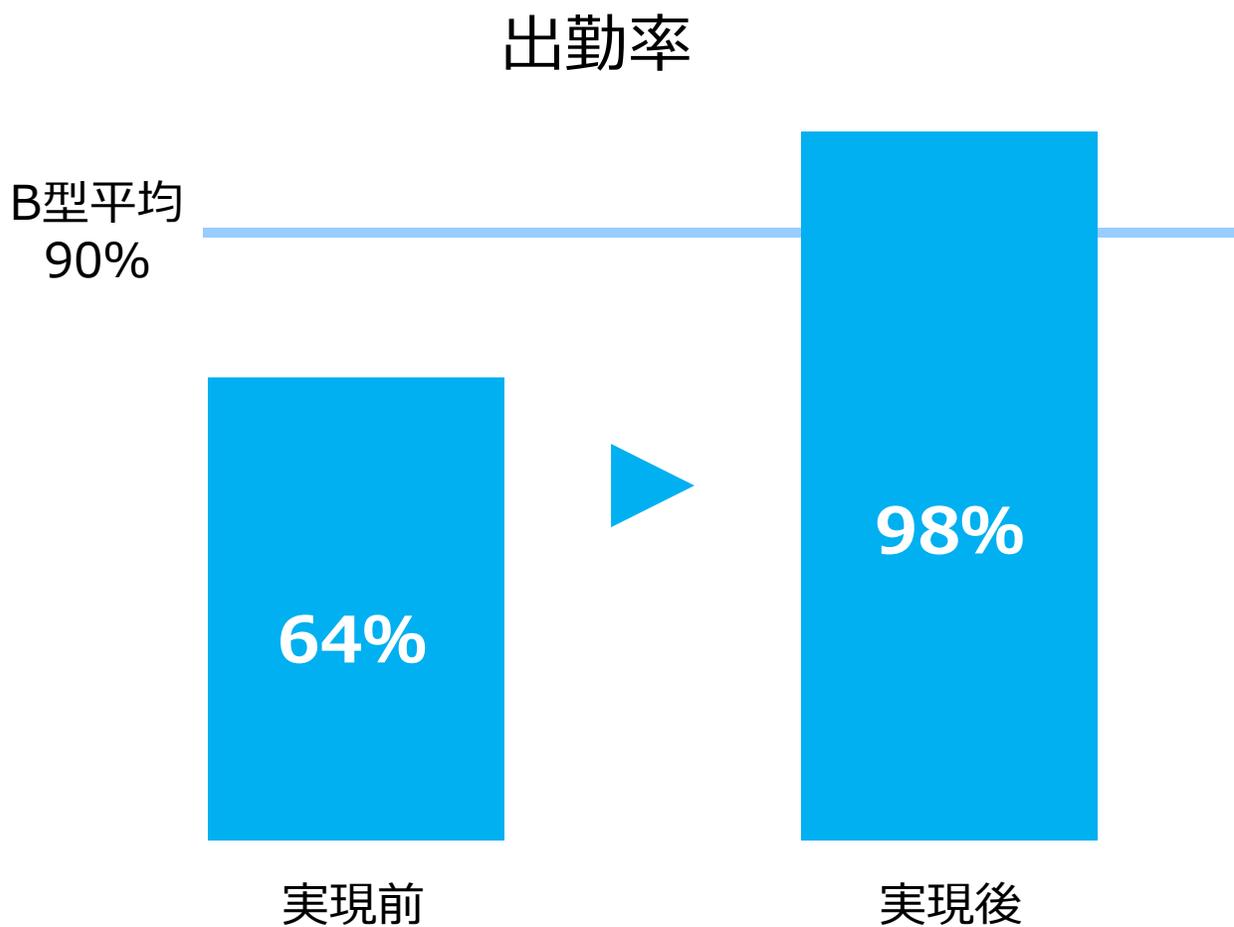
●出勤率の低かったA様

(62歳男性、療育手帳B、障害支援区分4、就労継続支援B型)

2019年まではテレビ・パソコンの基盤の解体作業に取り組み、細かい作業が得意

しかし、その作業がなくなって以降は作業への意欲が低下していた

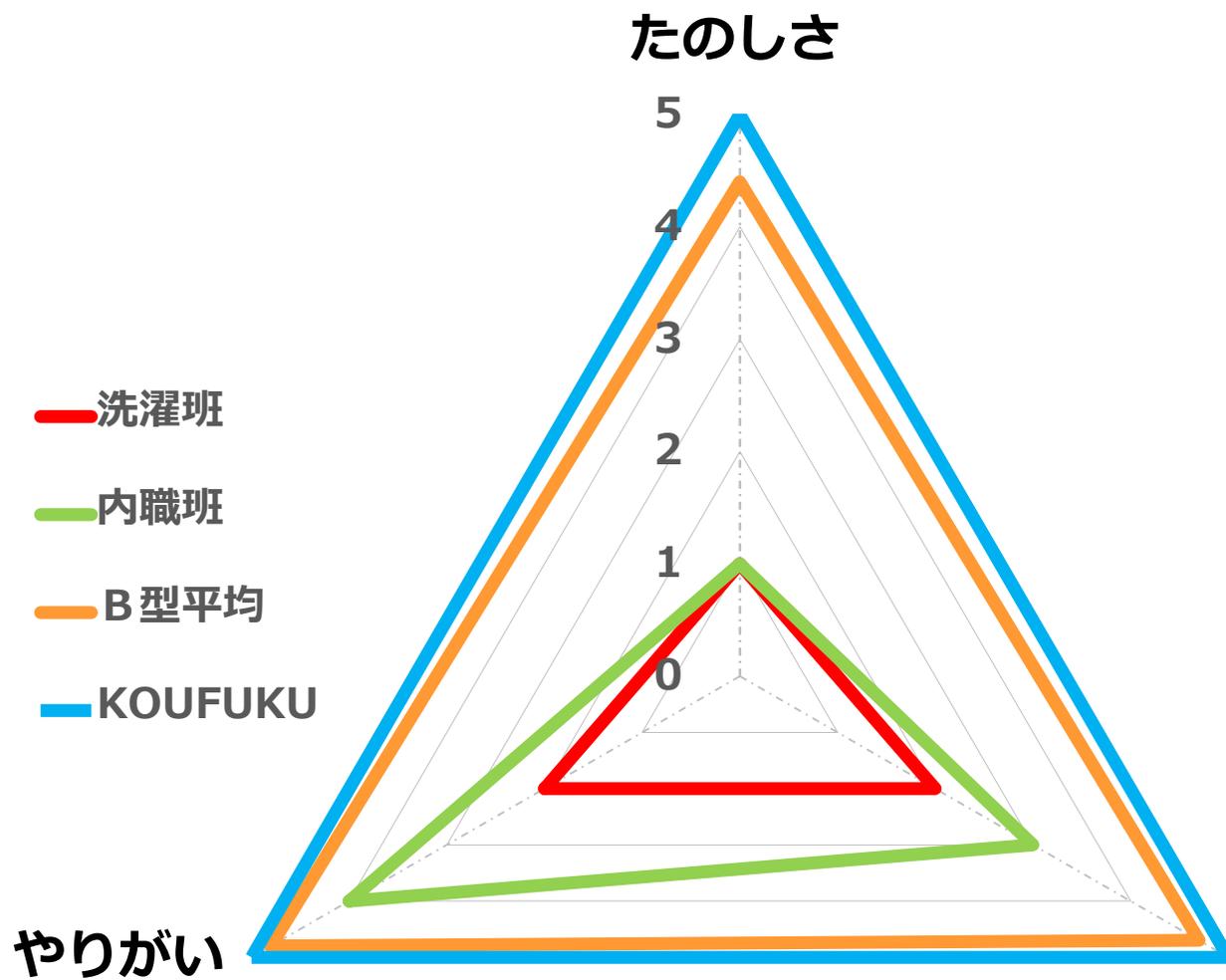
KOUFUKU連携による事例



KOUFUKU連携実現で
出勤率 **アップ**

(2022年度)

KOUFUKU連携による事例

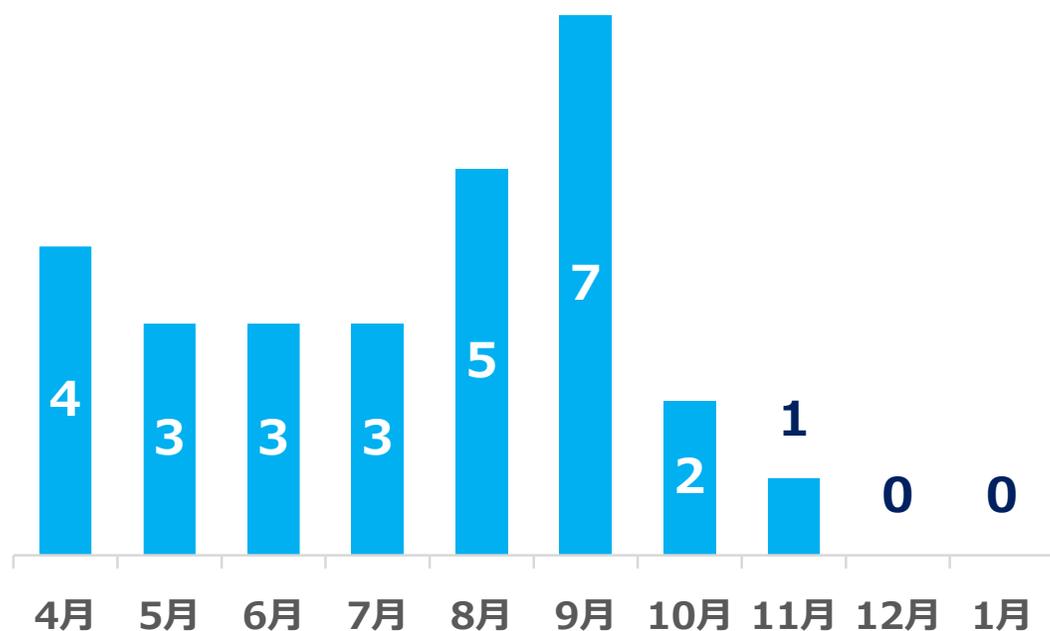


他の作業班と比べて
満足度**向上**

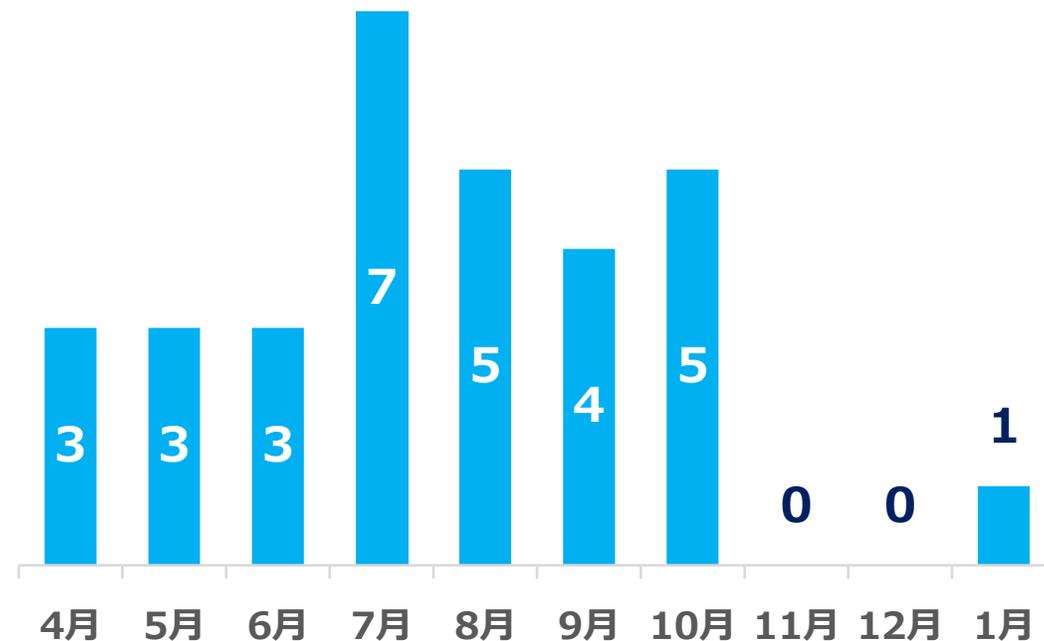
(独自の作業満足度アンケート調査)

KOUFUKU連携による事例

食事を廃棄した回数



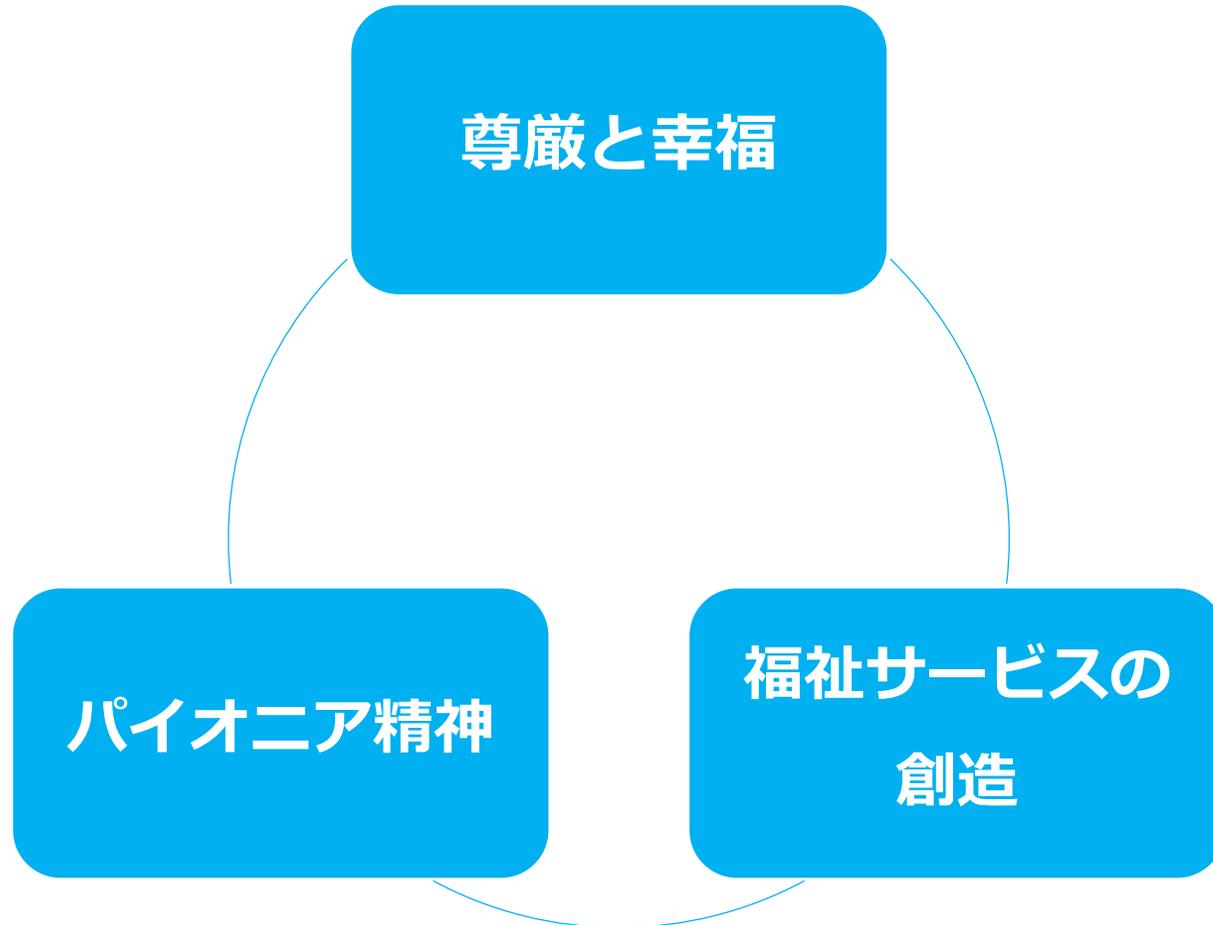
入浴しなかった回数



KOUFUKU連携が始まってから
食事廃棄・非入浴が**減少**

(2022年度)

まとめ



- 障害者の就労環境の改革
- 福祉の枠組みを超えた新しい働き方の創造
- 多様な人が生きがい・やりがいをもって働ける環境づくり

障害者の就労環境の改革

- 知的障害のある人の就労

- ▶
 - ・ 本プロジェクトを通じて当事者能力の可視化
 - ・ 可能性を追求した就労に関するパラダイムシフト

- 職員の意識改革

- ▶
 - ・ 社会状況に応じた就労モデルの創出
 - ・ 新たな企業との連携を図る知識・技術の向上

●新しい働き方の創造

● 新たな雇用の創出

- ▶ ・全国的にセンサー需要の高まりによる持続可能性
- ・ DX化が進行する社会に対応した就労環境の整備

● SDGsによる社会的責任意識の高まり

- ▶ ・ 上場企業と社会福祉法人との連携による事業展開
- ・ 企業価値を高める地域社会への貢献

●生きがい・やりがい

● 社会的価値のある製品

- ▶ ・ 地域にある社会問題を意識した製品開発
- ・ 安心で安全な地域（まち）づくりへの貢献

● 共生共助による連携

- ▶ ・ 地域にある社会資源と連携した生産
- ・ 地域住民とともに豊かな暮らしを実現する

工賃アップに向けて

- 就労継続支援B型の工賃、月額10万円の実現に向けて
 - ▶ ・年間3,240万円の売上が必要
➡1,800個以上の生産が必要
(1個18,000円で販売想定)
 - ・1日最大50個生産できるため受注があれば達成可能
- 受注量を増やすために
 - ▶ ・テレビ等のメディアを活用
 - ・営業の専門部署を設置

地域社会に向けて

- KOUFUKU連携を通して社会へアプローチ
 - ▶ 社会課題である、生活困窮者・引きこもり等地域で生活しておられる、幅広い人に向けて生きがい・やりがいを持って働ける環境をつくる